＊＊で過ごすＩＦな日々

御紋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
＊＊で過ごすＩＦな日々

【Ｎコード】
Ｎ２７６８Ｒ

【作者名】
御紋

【あらすじ】
『キミと過ごす日常的な非日常』のＩＦ番外編。よそさまキャラや世界への愛情の暴走結果とも人は言う。基本的にはマイペースすぎて困る篠原京香がいろんな場所へ遊びに行くシリーズ。
現在は「ＦＫ協賛」のみ。（お相手さまには御承諾の上での発表となっております）

遊ばせて頂いた！　（ＦＫ協賛）（前書き）

江川歩さま宅の「縁側通信（Ｎ０８５２Ｑ）」（ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ０８５２ｑ／）におけるＦ君への愛が暴走。ＩＦ話としてどうぞ。

遊ばせて頂いた！　（ＦＫ協賛）

「遊ばせて頂いた！」

ＦＫ協賛（第一期）

とある日のこと。
いつもどおり、イスランのいる魔王城まで遊びに行こうとしたわけだが。
なんかしらんけど、失敗した。

「――――　おい。生きてるか？」
「……」
泥の匂い漂う沼地に、健やかな成人女性の足が２本生えた。
お土産用の最近値上がりも甚だしい夏野菜を片手に、転移しなれた異世界へ移動する筈だったのだが。
どうやら、間違えたらしい。
――――だって、沼って、沼って！！
いまだ頭から沼地に突っ込んだままで京香は震えた。
魔王城近辺になら沼もどきの腐った沼があった筈だが、このようなドジョウとかメダカとかアメンボウとかヤゴとかが普通に生息してそうな美しい沼は記憶にない。
「…何してんのか知らないが、とりあえず抜いてもいいか？」
何を！？
…通常の京香だったらそう突っ込んだ筈だが、腐葉土のしっとり

なめらかこなれた沼底に頭から突っ込んだままの状態ではさすがにその突っ込みは出来なかった。
「よいしょ」
まさに、田圃仕事の途中のじいちゃんばあちゃんのごとき掛け声で、たぶん今までお逢いしたことのない御仁は京香を引き抜いた。
なんだ、今日の畑の収穫物はあたしですか。
熟してないからって、三角コーナーに直行させるのはやめてくださいね。
日本発信の「ＭＯＴＴＡＩＮＡＩ」精神は大事ですから、せめて漬物にしてください。一夜漬けで結構ですから。意地でも発酵かもしてさしあげましょうこんちくしょうめ。
混乱した頭で、ふらふらと座った京香には前が見えなかった。
黒色の泥で頭の半分まで泥に浸っていたためだ。
牛蒡の泥を洗うようにごしごしと服の袖で目元を拭いた京香だったが、袖までしっとりと染みついた泥のおかげで、むしろ汚れは広がっていた。
「……使うか？」
「…ありがとうございます」
綺麗な布（たぶんハンカチ）を貸して頂き、再度目元をごしごし。
「あ～、…こんにちは世界」
見えてきた視界にほっとしつつ、京香は呟いた。
「……（変な奴だな）」
物珍しげに覗きながら相手がそんなことを思っていることに、京香は気付いていたのかいないのか。
「はっ！！　しまった。一宿一飯の恩にも増して、救命の恩義は何よりも勝る！！」
お礼を言わねば。
「……　変な奴だな、おまえ」
混乱が収まったのか上記のごとく叫んだ京香に、今度は相手も遠慮なく呟いた。

「――――まさかの泥沼強制召喚で、沼地に生える考える葦の気分を味わうことになるとは思ってはおりませんでした。おかげで、ほどよく人身に戻れました。必要なのは二酸化炭素ではなく酸素です。美味しい空気です、幸せです」

「……うん」

おまえ、変。

御仁は京香への第一印象をその一言に決めたらしい。――――逃げてもいいと思うんだ。

「お礼になるかは判りませんが、最近どう見ても底値があがりおって困った夏野菜をよければお礼にさしあげます。ダチ連中へのお土産にしたろうかと思いましたが、よく考えると転移の衝撃で潰れてる可能性が…ってぎゃあああああ、青くさい匂いがするううう。トマ子〜！　茄子雄〜！！　きゅう子〜！！！！！！」

頑張って買った三大夏野菜がああああああ。

転移の衝撃で水気の多く含まれていた野菜が潰れたようだった。

――――いざ野菜ジュース１００％への道。

ちなみに同じ風呂敷に包んでおいたピーマンは無事だったようだ。素晴らしいね。

「……しまった。先にそっちを救済すべきだったか」

見知らぬ相手も救命してくださった心優しい筈の御仁が舌打ちをしたようだった。…ああ、いま幻想が消えた。

「人命ときゅうりのどっちが大事だ、この河童ああああああ！！」

「きゅうりに決まっとるだろうが！！　こんなこともわからんのか、貴様は！！」

上高地の高貴なる河童ことフレディと、異界渡りの娘こと篠原京香のファーストコンタクトはこんな感じであったそうな。

どっとはらい。

了　ｂｙ　御紋

遊ばせて頂いた！　（ＦＫ協賛）（後書き）

なにがどうしてこうなった。
ということで、江川さんちのＦくんに愛がつのったあまりの暴走でした。キャラちがったらさーせん！！（平謝り）

…気になりすぎてたＦくんの部分をメッセで頂いたあまり、暴走しました。それこそ「御紋さん、御紋さん、」と呼びかけられるほど。
いやほんとうに、たんたんと５時間は膝詰めて聞き出したい心境だったんで。（どんだけいっぱいいっぱいだったか…わかるよね☆）

で、だ。
ふおおおおおおおお！と暴走しました。（自重？　北陸の海に捨ててきた）
ここより始まったＦＫ協賛。（フレディ＆京香協賛）
……萌えって凄いね。

少しでも笑いのつぼに入っていただけたなら幸いです。（ぺこり）

愛情の暴走セカンドＶｒ．　（ＦＫ協賛・第二期）（前書き）

江川さま宅の「縁側通信（Ｎ０８５２Ｑ）」（ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ０８５２ｑ／）におけるＦ君への愛が暴走。ＩＦ話としてどうぞ。

愛情の暴走セカンドＶｒ．　（ＦＫ協賛・第二期）

「愛情の暴走セカンドｖｒ。」　ＦＫ協賛（第二期）

ぷちっと。
なんぞかしらんが、緑の相方が潰れた。
ぷちっと。

――――――しなびたきゅうりのごとく、使えん状態になってしまったんだがどうすんべ。

「おーい。フレディ、…死んだ？」
「こ…ろす、な」
みず。……みずを、くれ。
ぜひゅーぜひゅー、と危険な息の音をさせて、某所より連行してきたＦくんが呟いた。
「あいあい、水ねー」
水かー。…台所のでいいかなあ。
てとてとと歩く篠原京香は、今日もマイペースであった。

して、結論。
「めんどいので、転移よろひく。イスラン」
「……京香。だから、おまえは何を持ってきた」
頭を抱えているのが黒髪金目の我が親友。魔王城の主であるイスラン＝アル＝ジェイクだ。いえい。
「え？　河童のFくん」
「フレディ、だ」
ぜひゅーぜひゅーと今だ続く脱水症状のくせに突っ込みは忘れない相手がいた。
どうも、京香を相手にするとしっかりと自己主張をしないといけないと思う輩が多いらしい。
まあ、…そうだろうね。
「河童がなぜここに…。いやいい聞く気はない話すな……転移だな、水があればいいのか？」
「イエス、ザッツラーイト」
古いネタで今日も返事した京香だった。
「……」
無言でそんな友ごと術をかけたのは、魔王でもあるイスランだった。
「――――――　…ふむ。胡瓜はあったかな」
B級映画（妖怪モノ）で使用されやすい日本伝来の河童をもてなすために、厨房の主に確認をしてもらわねばとかいそいそしだしたイスランだった。
さすがだ、類友。

「…イヤ嬉しいが。――――せっかくの一張羅が水浸しだどうしてくれる」
友人の部屋からここぞと奪ってきたリクルートスーツを着込んでいた河童が嘆いていた。
「だってさー、まさか転移の衝動でフレディの大事な頭の皿から水がこぼれるとはよもやおもってなかったわけで…いえすいませんごめんなさい全て拙めが悪いのであります」
「わかればよろしい」
きらんとその水かきのついた5本の指で京香の顔を浴室に沈めようとした河童が呟いた。
雉も鳴かずば撃たれまいに。
「……だって、笑って許して下さった喜びで、再度暴走しおったんだもん」
きゃつが。
「何か言ったか？」
「いえなにも」
ぼそりと再び鳴いた京香に、お肌に美味しい風呂場の水を体中に含んでつやつや張り張りのお肌になった上高地出身の河童が狙撃したようだった。
ははははは、空気読めよ主人公。

「で、美しい人魚はどこにいるんだ」
「フレディ、意外にも食欲よりもそっちなんだね」
胡瓜がなかったためにメロンを出してきた魔王城での宴会で、も

そもそと魚の干物をくってるフレディが確認してきた。
美人との出会いが欲しいとのたまう相手に、つい教えてしまった自分の過去を少しだけ悔んだ京香だった。
「美しきものを求めるのは、生き物の性である」
「いや、どや顔で宣言されてもやってることはただのすけべです」
「節度ある欲望の発散は、犯罪の抑制には必要不可欠なことだぞ？」
「いや、そらそうだけども」
もっそもっそと同じく隣で肉を掴んで貪り喰いつつ京香は言った。
「ところで、どうやって甲羅をスーツのなかに突っ込んだのか聞いてもいいかい？　フレディ」
「日本古来の妖怪なめんな。それは企業秘密だ」
もっそもっそと飯を食いつつ喋る一人と一匹を横目で眺めながら酒を呑みつつ、イスランは思った。
こいつらも同類（バカ）かと。

きょうも馬鹿な物語りが終わる。

了　ｂｙ　御紋

愛情の暴走セカンドＶｒ．　（ＦＫ協賛・第二期）（後書き）

どうしてこうなった第二弾。
Ｆくんを「君日」にトリップさせればいいじゃない☆と言われて、脳天に隕石のごとく降ってきたネタ。
人魚の彼女に会いたいために、人間の友人が持ってたと思われるスーツを勝手に引っぱりだしてきたＦくん（笑　勝手に人さまのキャラ作るにもほどがある。しってるよｗｗｗ

花が咲けば、虫が飛び交うもんです　（ＦＫ協賛・第三期）（前書き）

江川さま宅の「縁側通信（Ｎ０８５２Ｑ）」（ｈｔｔｐ：／／ｎｃｏｄｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｎ０８５２ｑ／）におけるＦ君への愛が暴走。ＩＦ話としてどうぞ。

花が咲けば、虫が飛び交うもんです　（ＦＫ協賛・第三期）

注）もちろんこれはＩＦ話です。
「花が咲けば、虫が飛び交うもんです」　ＦＫ協賛　（第三期）

「おおおお、これぞ！　これぞ、極楽！　ぱらいそ！！」
緑の相方は、その両の眼から貴重な水分を垂れ流しながら叫んだ。
「…どうしようかな、今の内に後ろから強襲して縛り付けて（元の世界に）返す方が正しい気がしてきた」
自分も過去に同じような行動をしたことを棚に上げて、　そう呟いた篠原京香であった。

「……渡人さま。……誰ですの？　そちらのかたは？」
なにやら凄く顔色が悪いようですけども。
ぱしゃりと人魚の泉から声がかかった。
「あ、ウルリッヒお姉さま。お久しぶりでえす！」
水かきのついた手を岸につけて、声をかけてきたのは人魚族の美女。ウルリッヒ＝蘭＝イデア。
京香の大好きなお姉さまのお一人である。

「おおおおおお！　美女成分！」
「黙れ、河童。もちつけ」
きもい。
「喜んで献上してくれるわ。祝いの三日餅（ミカノモチヒ）を！！」
「――――――そう返しやがったか、無駄に薀蓄に満ちあふれたインテリジェンスな河童め」
ちなみに、三日夜の餅とは平安時代の婿取り婚で夜ばいした男を三日目に親が踏み込んで捉え、その家でつくった餅を食わして婿に取るという「三日夜の儀式」で使用される餅のことをいう。
「……かっぱって？　なんですの？　渡人さま？」
「うん、お姉さま。いいたい事わかるけど、句点つけて。――こいつが喜んで花盗人になりそうになる」
「喜んで！　河童かっぱらって嫁にします！！」
「ほら、な」
興奮で、頭の皿に補充した水が蒸発しそうなフレディだった。
「黙れ、河太郎！　貴様にやる花はない！」
気分は燃える宇宙（コスモ）で小僧を蹴散らすおじい様だ。好きやったんや。
「うるせえ、花は愛でてこその花！　というか、むしろ俺はここに住む！　むしろ棲む！！」
一つ屋根の下でうっはうはだ！！
河童が叫んだ。
貴様の故郷は上高地だろうが。帰る場所を間違えるな。
「甘いな、貴様によい知らせを教えてやろう。河童あらため河太郎。――――――人魚は本来、海に住む生き物だ！！」
ガンッ！
一つ目の見えない岩が、フレディの頭に落ちた様子だった。
「ま。……ま・さ・か？」
ぎこちない動きでこちらを向いたフレディへ二つ目の知識を教えてやった。
「川や沼に住む生き物が、海に放たれると死んでしまうそうだな。

……大変だな？」
淡水生物は。
親切丁寧に主に湖沼を住まいとする日本古来の妖怪に教えてやった京香だった。
そして、水泳の飛び込みよろしくの格好で止まっていたフレディが、二度目の水分放出を始めた。
気のせいでなく、先ほどの幸せの涙よりも多いとみられる水分放出量だった。
「畜生！　俺はどうして上高地で生まれたんだ！！　福岡にさえ生まれていれば！！」
そうすれば、俺だって海に行けたのに！！！
この世の終わりのように泣く河童の姿は、すごく京香の心に癒しを与えてくれた。
よし、これで花の蜜にたかる虫（ただしくは河童）は排除された。
すんごく、いいことしたなあ。
などと満足した京香だった。

「…なんていうか、すごく莫迦らしい時間を過ごした気がするわね」
「そうね、ウル」
見守るお姉さま方は、それでも美しゅうございました。

あまりの絶望で泣き暮らした揚句、再びしなびれたきゅうりになったフレディの頭のてっぺんから持参した水をかける。
だって、これから強制返還かますのに事前でこの状態だったらこやつ死ねるぜ。
河童のミイラをこれ以上増やすこともあるまいと思う京香だった。

いやまあ、観光地は増えるかもしれないがな。
「うう。うう。うううううう。――――ぱらいそー。ぱらいそー。ぱらいそー」
言語中枢が壊れた河童は平仮名四文字しか喋らなかった。
「じゃあ、お姉さま方。――――またお会いしましょうねー」
にっこりとそんな緑の相方の首根っこを掴んで御挨拶。
大事なことは腕を引っぱっちゃいかんということだ。
こいつらって両腕が背中で繋がってんだってさ。通臂っていうらしい。

「ええ、またね」
「……何しに来たんだったの？　あなたたち？」

判らないなりに手を振ってくださるお姉さま方はとても優しいなあと心休まるさようならの時間でした。

「ううう、ぱらいそー、ぱらいそー、ぱらいそー」
「にしても、うぜえなこのオープンスケベエロ河童」

未だに泣いている河童を故郷へと送ってやった。
着地点は見事に沼のど真ん中だったので、心配だったしなびたきゅうり再現はなかったようだが。
「……」
「……」
今度は、沼に４本の足が生えた。
どうやら衝撃的だった初回の時の転移座標を再現してしまったらしい。なんということだ。

「いやあ、丁度フレディに会いに行くところでよかったねえ」
沼に入ったの、スゴイ久しぶりだったよー。
爽やかに笑うフレディの友人は膝までめくったズボン姿で言ってくれた。
「どうもありがとうございました」
「ううう、ぱらいそー、ぱらいそー、ぱらいそー」
アパートの隅でまだ泣いてる奴がいた。
「こいつが勝手に俺のリクルートスーツ奪ってったからさあ。回収しようと思ってたんだ」
笑顔で笑いながら怒る御仁がいた。
巻き込まれたくはないので、早々に帰ろうとおもう。
「じゃあねえ、フレディ。……強く生きろよ☆」
華麗に退散した京香だった。

ふっと消えた女性を見送りつつ、世の中っていろいろとあるよなあなどと思う出来た人間は、友達でもある河童のフレディの愚痴を聞いた。
「ううう、俺は海の河童になりたい」
「……ああ、そう」

土産に貰った変わった味のする干物を肴に酒を呑みつつ、密かに彼は思ったという。

（陸地の泉に牛が住んでる時点で、その人魚の泉って淡水だったんじゃねえのかな？）

思いながらも、今さらどうにもならない指摘をしたところで目の前のオープンすぎてダチになりたいスケベ河童が騒ぎ出すことが判っていたので、彼は何も言わないことにした。

それはたぶん、この一連の話のなかで最も賢い選択だったと思われる。

どっとはらい。

了　by　河童愛で

たぜとどや顔の御紋

花が咲けば、虫が飛び交うもんです　（ＦＫ協賛・第三期）（後書き）

思ったよりも、時間食っちゃったよｗ。
でも、悔いはないです。
アパートのご友人まで出演させるあたりがなんとも俺得。
九州の河童は海に住んでるそうな。すげえと一言。
ちなみに、泉は淡水です。あれええ？　＾ｐ＾

まさかのＩＦ三作。（ＦＫ協賛）
とても楽しく遊ばせて頂きました。
これも江川さんの優しさとフレディ話のおかげさまです。本当にありがとうございました。＾＾）ノ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2768r/

＊＊で過ごすＩＦな日々

2011年3月1日02時40分発行